

「理解度に応じた指導を」

県教育懇 理系人材育成へ有識者

県教育懇談会が二十日、県庁であり、大村秀章知事が「理数工学系人材の育成」をテーマに有識者から意見を聞いた。愛知教育大卒で、数学教師だった漫画家の江川達也さんが特別参加し、「理解が早い子どもはどんどん飛び級させるなど、一律ではない指導が必要」と述べた。

(今村太郎)

理数系を重点的に教える「STEM教育推進事業」や公設民営の愛知総合工科高専攻科

江川さんは「中学校

で数学を教えたが、五月で辞めた。同じ内容を一々に教えるのは不可能と思った」と自身の経験を披露。「できる子どもはすぐ理解

する。一律ではなく、理解度に応じて教えていくことが必要」と話した。

江口忍・名古屋学院大教授は「愛知は政策が充実しているが、学力テスト(全国学力・学習状況調査)のアンケートを見ると、数学への関心が全国平均より低い。原因を探るべきだ」と指摘した。

後藤ひとみ愛教大長は「子どもは、遊びを通じて科学に触れていると楽しそうだが、教科になると興味が薄れる」と分析。中野靖彦・愛教大名誉教授は「科学イベントは子ども心をつかむように考えられている。教育者も考える必要がある」と呼び掛けた。柴山忠範・県経営者協会専務理事は「仕事に必要な技術は日進月歩。どんどん新しい技術が出てくるので、それへの対応力を付けてほしい」と注文。宮本



自身の教師経験をもとに理数系人材の育成について語る江川さん(左)県庁で

【愛知の理数系教育政策】

- STEMハイスクール研究指定事業
研究校5校(瑞陵、大府東、半田農、岡崎工、豊橋工)で、理工系大学と連携して教育課程を研究開発
 - STEM教育力強化事業
研究校8校(春日井工、春日井商、古知野、東海商、松平、猿投農林、刈谷工、新城)に専門家を派遣し、教員に理数科目の教え方を伝授
 - STEM能力育成事業
理工系大学や企業で子どもたちが学ぶ「探究講座」や「あいち科学の甲子園」など
 - 愛知総合工科高専攻科
全国初の公設民営高校。トヨタ系メーカーの熟練技術者らが講師と務め、生徒は最新の工作機械で技を磨く。
- ※「STEM」はScience(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字。